

日本医学会分科会活動報告

一般社団法人 日本結核・非結核性抗酸菌症学会

理事長 磯部 威

前理事長 藤田 明

I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる学会の独自の活動

a. 特に学術的に重要と考えられるもの

1. 本学会は 1923 年、結核が国民病として国の最大の健康問題であったさなかに創設され、結核対策の推進や結核患者の診療水準の向上に貢献してきた。その結果、X 線診断に支えられた初感染発病学説の確立、結核化学療法の治験へ繋がった。近年ツベルクリンに替わるものとして開発された血液検体を用いた結核感感染診断法に関する研究や本学会抗酸菌検査法検討委員会による薬剤感受性検査の外部精度評価活動もあげたい。

2. 2017 年に新たにガイドライン施行委員会を設置し検討、現在「結核診療ガイドライン」を作成中である。

3. 本学会のもう一つの大きな使命である非結核性抗酸菌症対策については、疫学調査、治療前向き介入試験、薬剤感受性試験基準の導入等に本学会員が積極的に関わっている。

b. 当該領域における国際的な役割

2018 年、本学会の国際交流委員会の活動を再開した。本学会が世界の抗酸菌症学に貢献し、日本発の知見を世界へ発出するとともに海外との人的交流を深めることを目的とし、新たに動き始めた。

c. 活動からもたらされる社会的な意義

1. 本学会の作成「結核医療の基準」を基に厚生労働省は「結核医療の基準」を作成し、結核公費負担医療の指針としている。さらに、「欧米で使われており、かつ本邦で適応外使用されている結核・非結核性抗酸菌症に必要な薬剤・技術」の保険適応拡大・審査事例承認申請を行い、実地臨床に貢献している。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大下において 2020 年、本学会より「新型コロナウイルス感染症と BCG ワクチンの接種に関して」、「提言：新型コロナウイルス感染症による結核医療体制への影響に鑑み」をホームページ上で発出した。

2. 多剤耐性肺結核の治療薬であるデラマニドおよびベダキリンの使用に際し、耐性菌出現防止及び適正使用の推進を図る目的で、登録患者臨床情報により適格性を確認する「適格性確認システム」を製薬メーカーと共同で構築した。

3. 2010 年から認定医・指導医制度を運用している。また、2013 年には抗酸菌症のチーム医療構成メンバーである看護師・保健師等の結核・抗酸菌症に対する専門的知識と技術の向上

をめざす目的でエキスパート制度を構築した。2020年9月現在、指導医566名、認定医1487名、エキスパート260名である。

4. 近年の本学会編の出版物としては、『実地医家のための結核診療の手引き』（2016年）、「非結核性抗酸菌症診療マニュアル」（2015年）：改訂準備中、「抗酸菌検査ガイド2020」（2020年）などがある。教育・用語委員会からは「結核症の基礎知識」改訂第5版（2021年）が発表された。

d. 学会運営上留意している点

1. 結核患者数の減少に伴い医療従事者の結核に関する関心が薄れてきている一方で、医療機関・施設内での結核集団感染の報告は続いている。COVID-19の感染拡大に伴い感染症への関心が高まったが、将来の結核ゼロを目指して、世界3大感染症（結核・マラリア・HIV）の一つである結核に対して、引き続き医療従事者に関心を持ってもらえるよう活動を継続していきたい。

2. 一方、国内では非結核性抗酸菌症患者が急増しており、いまや結核を超える患者数となっている。本学会はかねてよりその研究と対策に取り組んでいたため、非結核性抗酸菌症にも積極的に関わっていることを学会の名称上も明確にすることとし、2020年1月1日に日本結核・非結核性抗酸菌症学会へ改称した。

II. 日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載してください。

下記例のように社会医学系を含めた医学会分科会と積極的に連携している。

□日本公衆衛生学会・日本結核病学会・日本国際保健医療学会合同緊急シンポジウム（2019年5月）『保健医療体制の内なる国際化に向けて－急増する外国人生活者への対応と課題－』

□日本呼吸器学会との共同企画（呼吸器学会学術講演会において毎年1回開催）

第61回日本呼吸器学会学術講演会『非結核性抗酸菌症の現状と最新知見』（2021年4月）

□日本感染症学会との共同シンポジウム（感染症学会学術講演会で毎年1回開催）

第95回日本感染症学会学術講演会『非結核性抗酸菌症の最近の話題』（2021年5月）

□第64回日本医真菌学会総会・学術集会 日本結核・非結核性抗酸菌症学会合同シンポジウム（2020年10月）『真菌・細菌感染防御と肉芽腫・多核巨細胞』

□第95回日本結核・非結核性抗酸菌症学会総会・学術講演会ジョイントシンポジウム（2020年10月）を開催（分科会のみ掲載）

・日本医真菌学会、日本救急医学会、日本公衆衛生学会、日本呼吸器内視鏡学会、日本リウマチ学会それぞれとジョイント開催

□日本呼吸器学会編集、日本リウマチ学会・日本感染症学会・日本結核・非結核性抗酸菌症学会協力『炎症性疾患に対する生物学的製剤と呼吸器疾患診療の手引き 第2版』（2020年）の発刊